

令和3年度第1回子ども・子育て会議 会議録

日時

令和3年5月27日（木曜）15時～17時

場所

ZOOMアプリにてオンライン開催

出席委員

柏女会長、吉川副会長、中山委員、櫻庭委員、杉橋委員、田中委員、藪本委員、手塚委員、松本委員、岩田委員、橋本委員、西原委員、吉田委員

欠席委員

松田委員

事務局

秋元子ども家庭部長、小谷子ども家庭課長、根本保育課課長補佐、青野子ども政策室長、倉本子ども家庭課主任主査
廣原子ども家庭課主査、北根子ども家庭課主事

議題

- (1) 認可保育所等整備に係る待機児童数について
- (2) 令和3年度子ども・子育て会議年間スケジュール（案）について
- (3) 第2期子どもをみんなで育む計画における令和2年度事業評価について

配布資料

- 資料1：待機児童ゼロについて
- 資料2：年間スケジュール
- 資料3-1：事業評価集計表
- 資料3-2：事業評価シート（重点施策）

議事録（概要）

《事務局》

定刻となりましたので、只今から、令和3年度第1回流山市子ども・子育て会議を開催させていただきます。

次に会議の成立について申し上げます。本日の会議につきましては、委員14名中13名の出席となっており、条例により、委員の半数以上の出席により成立いたしますので、本会議が成立していることを申し上げます。

本来であればここで子ども家庭部長より皆様にご挨拶差し上げるところなのですが、只今別の会議に出席しておりますので、後程改めてご挨拶差し上げます。

本日の留意事項ですが、ZOOMにより会議を開催しているため、別室で傍聴の対応をしていることを申し添えます。

それでは柏女会長より議事進行をお願いしたいと思います。

《柏女会長》

皆さんこんにちは。本日は委員の皆様の2年間の任期の最後の会議となります。議題について議論をした後、皆様から一言ご挨拶ちょうだいをご希望しております。

それでは、まず議題1認可保育所等整備に係る待機児童数について事務局から説明をお願いします。

《事務局》

資料1：待機児童ゼロについて 説明

《柏女会長》

ありがとうございます。只今の説明について、各委員からご質問ご意見があれば、お願いします。

《意見なし》

《柏女会長》

特にございませندでしょうか。他の地域ではもう潮目が変わって、減少傾向に入るところも出てきておりますけれども、流山の場合はまだしばらく増加傾向もしくは据え置きとなると思います。来年の4月からは保育所数が100を超える可能性

があります。都内では保育所が撤退するという流れが起きていますので、次期の任期の審議会でも大きな課題の一つになると考えられます。

それでは次の議題2、3に移ります。事業評価について事務局から説明をお願いします。

《事務局》

資料2：年間スケジュール

資料3-1：事業評価集計表

資料3-2：事業評価シート（重点施策） 説明

《柏女会長》

ありがとうございます。重点施策を対象に事業評価を行いましたので、この評価の方法について、ご意見を頂戴したいと思います。個々の事業評価結果についてどうなのかというご意見もあると思いますが、まずはこの事業評価の仕組みに対するご意見を願います。

私からまず1点申し上げます。事業評価シート内の「令和2年度の現状・課題・取り組み」欄に、ほとんどの事業が課題について書かれていません。例えば地域子育て支援センターでコロナウイルスの影響により利用者数が減少したという課題が書かれていて、それに対する改善策があってから評価を付けるのではないのでしょうか。現場からヒアリングを行って課題を抽出してから、評価を行った方がいいと思います。

皆様からはいかがでしょうか。

《藪本委員》

どのようにその評価を付けるに至ったのか、その根拠を入れたほうがいいのではないのでしょうか。この事業のこの部分がクリア出来ていたらA評価だけれども、達成できなかったのがB評価というように、評価の流れを見える化をしておいた方がいいと思います。ご検討いただければと思います。

《柏女会長》

ありがとうございます。評価の根拠がわかるような書き方がいいのではないかという意見でした。このほかにはいかがでしょうか。

《手塚委員》

この事業評価シートは、課題設定がちゃんとされない限り何も機能しないと思います。この事業が目標としていたように進まないのはどのような課題があって、それを解決するためには上司と部下の認識のすり合わせが必要です。それを明らかにするには最初の課題設定が重要だと思います。

2点目の意見ですが、民間と違って行政ではこの事業目標を達成したら給料が上がるというようなインセンティブがないと思います。その場合、担当者が低い目標設定をしてしまってその中で運用するような事態が起きる可能性があります。実際の担当者のモチベーションと事業の進捗が連動するものであると思うのですが、何かそのような制度を新設される予定はあるのでしょうか。また、今回の事業評価はそのような事態も考慮して運用されているものなのでしょうか。

《柏女会長》

ありがとうございます。1点目のご意見として頂戴いたします。2点目について、事務局からはいかがでしょうか。

《事務局》

何か給料の増額などでインセンティブが設定されているかについてお答えできる立場でないので回答は差し控えさせていただきますが、流山市として、実施事業について公表しておりますので、市民の皆様からもお声をいただく機会があったり、市議会で予算審査や御質問をいただくという形で意見を頂戴するようになっていきます。

《手塚委員》

私が行政側の制度や限界を理解していないので、行政と考え方が違うという点で意見がすりあわないのかもしれませんが。

《柏女会長》

成果についてはみんなで子どもを育む計画の、5年後の目標設定はなされていくので、そこにどう到達するのかということが、評価の基準になってくると思います。他にいかがでしょうか。

《橋本委員》

全体としてコロナウイルスの影響を、どのように事業評価に織り込むかが課題としてあります。中には、活動指標や成果指標の数値が未達なのに、B評価がついて

おり、影響があるからといって未達が当たり前であるというのは、いかがかと思えます。稼働日数や入場日数の制限があっても、従来と比較して同程度のもの、またはそれ以上になっている部分があると思えます。そのような中で、極力利用者が満足を得られたのかを数値として出すと非常にわかりやすいです。目標値に達しないのであれば、それなりのペナルティをとった工夫していく方法もあると思えます。

評価の付け方は、A評価の場合には具体的に91%以上の評価だった理由がわかるように、C、D評価であれば達成できなかった理由を記載するようにはどうでしょうか。

令和2年度、令和3年度は、確実にコロナウイルスの影響が出てくるので、何か一つの物差しを作っておくことが、合理的な方法ではないか思います。

《柏女会長》

ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。

《松本委員》

事業番号20番のファミリーサポートセンターのことにに関して、コロナ禍でなかなか思うように活動ができていない中でも、できる取り組みを実施しています。事業評価シートの次年度の取り組み欄に記載のあること以外にも、流山市独自の子育て支援活動の紹介の動画や、ファミリーサポートセンター事業案内動画を作成しホームページに掲載しました。また、6月にある流山市の市民活動のオンラインフェスタにも参加しています。そうした取り組みも事業評価シート内に入れていただければと思います。

《柏女会長》

ありがとうございます。この事業評価は行政自体の取り組みなのか事業の当事者の取り組みについても盛り込むのかは、どのように考えたらよいのでしょうか。

《事務局》

行政だけや、行政が委託等を行っているもの、行政とその他団体が共同で行っているものもあります。行政として事業進捗を統括することから、事業者独自の工夫などをすべてこの評価の中に入れ込むことは困難です。

《柏女会長》

その他についてはいかがでしょうか。

《田中委員》

先ほど松本委員の意見に加えてですが、ファミリーサポートセンターに関しては、委託事業なので、現場の声を聞いてもらわないと、事業評価シート内の課題や目標設定の部分は書けないと思います。すり合わせたうえで評価をしていただきたいです。

コロナウイルスの影響もあって活動数は減っていますので、そこを目標値にすることはどうかというところからそもそも議論したほうがよいのではないのでしょうか。

《柏女会長》

ありがとうございます。事務局で例えば、重点事業だけでも、現場の意見を確認してきた上で、評価に生かしていくのはどうでしょうか。全事業行うのは現実的に厳しい部分がありますので、可能な範囲で検討をお願いします。

そのほかにはいかがでしょうか。

《藪本委員》

部会で議論した内容で、基本的な目標の設定のプロセスと、評価のプロセスのところは明確にしましょうという話がありました。それが今回の資料には、全部盛り込むのは難しいと思うので、バックデータとしてでも運用上そういったところは、反映はされるという理解でよろしいでしょうか。

《事務局》

前段として、各事業担当課に事業評価をお願いするにあたり、部会の皆様からのご意見と、事務局で考えていることを、盛り込んだうえでお願いをしています。

活動指標や成果指標は、元々各担当課で指標として使っているもののほかに、今回の評価をするにあたって改めて設定をしたものもありますので、各担当課でどういった経緯で設定したのかの流れは情報として持っています。

また、先ほど橋本委員から意見があったように利用者の満足度については、コロナ禍であっても把握できるものですので、そういった指標の視点も各担当課に伝えていきたいと思っています。

《藪本委員》

目標設定の妥当性があるのかが疑問点であって、結果を評価するときに、個別に妥当な評価の指標になっていて運用できているのかを、もう少し見える化はしたほ

うがよいと思います。次期の委員の皆さんにあらかじめ共有したほうがよいと思います。

《柏女会長》

第二期計画ができたあとに、評価方法の議論をしてアウトプット評価とアウトカム評価について作成したので、5年後の事業目標というのが計画では定められていないわけです。

この事業評価シートの中に、5年後の成果目標は少なくとも盛り込むことができますし、アウトカム評価については今後調査してみないと把握できません。3年後、5年後に評価した際に目標に対してどのように推移していったのか把握するために、最初に評価設定をすることは大事なことだと思います。ほかはいかがでしょうか。

《手塚委員》

評価の仕方等について、審議会の委員が意見を出して、それを元に職員が作るということだと思いますが、その内容や運用について指摘をするのは、議会なのでしょうか、それとも次の審議会委員なのでしょうか。

《事務局》

まずこの子ども・子育て会議自体が、計画の推進状況を評価し、その評価自体が適正かどうかご意見、ご判断いただく会議です。また同時並行で、この計画に基づいた事業を実施していますので、その事業実施の中で市民の方や市議会で意見をいただいております。

《柏女会長》

この審議会の委員がこの計画の進捗状況について、責任を持ったうえで市長に意見を申し上げる形になります。これまでも意見を申し上げておりますので、次期の委員においても同様の形になります。

その他にはいかがでしょうか。

《西原委員》

事業番号113番の学童クラブの活用についてですが、児童の受け入れ体制を拡充するという意味では、今年学童のガイドラインの見直しがされました。保護者の利便性を図るために、お迎えの体制とひとり帰りが条件付きで認められました。学童のガイドラインが初めて改定ということで事業評価の中の成果として記載してい

ただきたいと思います。

《柏女会長》

ありがとうございます。ご意見として承って、事務局で検討していただきます。

私の方からですが、事業番号112番の障害児保育について、以前から意見が出ていたと思いますが、どうして公立保育所の実施数しか盛り込んでいないのでしょうか。

《事務局》

確認いたします。

《柏女会長》

障害児計画を作成したときにも同様の議論が出ていたと思いますので、次回でも結構ですので、ご確認ください。

他にはいかがでしょうか。よろしければ、議題2は、これでひとまず終わることとして、冒頭申し上げたように、本日が任期最後の会議ですので、子ども・子育て会議のあり方や、子ども子育ての現状についてご意見を皆様から頂戴できればと思います。

その前に、秋元部長からご挨拶をいただきます。

《秋元部長》

いろいろな事業を評価するに当たりまして、目標設定について各委員の皆様からご指摘がありました。市役所はなかなかこういう事業評価に慣れておりません。課題を捉えていないから評価できていないということは、認識していきたいと思っております。

また、この4月に待機児童ゼロを達成することができました。コロナウイルスが大きく影響したと思いますが、私どももこれに向けて、取り組んで参りましたので一定の成果であると考えております。

各委員の皆様には2年間にわたりありがとうございます。また2年間新しい委員になっていくわけですが、私どもも頑張っていきたいと思っております。

《柏女会長》

それでは、岩田委員が間もなく退席予定であることから、岩田委員からご挨拶いただければと思います。よろしく申し上げます。

《岩田委員》

初めて市民として参加させていただいて、裏ではこのような会議が行われて進んでいて、その努力を感じることができました。これからも市民として、子供たちが伸び伸びと育っていくような流山になっていって欲しいと思っています。ありがとうございました。

《柏女会長》

ありがとうございました。このあとは、流山市子ども・子育て会議の委員名簿の順番に沿って、ご発言をお願いできればと思います。まず、中山委員お願いいたします。

《中山委員》

この2年間いろいろと皆さんにも助けていただきながら、微力ではありますが、意見を述べさせていただきました。何とか私の意見も組み込んでくれて考えてくださったことを感謝しております。ありがとうございました。

《松本委員》

2年間ありがとうございました。ファミリーサポートセンターの仕事を通して、昨年コロナ禍で、特に子育て環境が急変し、子育てに戸惑っている方が非常に多く見受けられます。今後の会議でも、様々な計画がなされると思いますが、今必要な援助を迅速にして、できるだけ短い期間で提供できればと思います。

《櫻庭委員》

2年間大変お世話になりました。この1年間子供たちの命を預かることの大変さと、保育園に子どもが来ることができないなかで、保育ができないんだということを強く感じました。安心して子どもたちが生活できる場である保育、そして教育の面から、子どもたちにとってどうなのかということを考える視点を大事にしていきたいと思っています。

《藪本委員》

2年間ありがとうございました。市民委員の時からずっと言い続けてきた事業評価の考え方について、市と少し意識のすり合わせができたのではないかと考えています。

どうしても保育の議論となると、量の話になってしまいますが、今は転換点を迎えていると感じています。引き続き議論を深めていきながら、この会議で支援をできるような、会議体になればいいと考えています。

《西原委員》

学童をできる限り皆さんに知っていただくという意味で、このような会議にどんどん参加していくべきだなと思いました。より利便性が高く、皆さんの支えになるような形での改善を行っていきたいと思っております。そのような成果を次の委員の方にも伝えて、この会議に貢献できればと考えています。

《吉田委員》

流山市を取り巻く子育て環境は、私自身が子育てをしていた時期と比較してもそれなりに向上していると思いますが、今の子育て世帯はコロナ禍ということもあり、まだまだ何か足りないと感じている家庭が多いと思います。このような行政と市民とのパイプ役として、この会議の意義がますます出てくると思います。委員の皆様の今後のますますのご活躍をご期待しております。

《杉橋委員》

幼児教育支援センターでは、主に相談等の業務と研修会を行っていますが、市内の園が増えていますので、できる限り保育園等のニーズに寄り添った相談業務や研修会を行えるように、努めて参りたいです。指導課でも、就学相談、教育相談と、かなり件数も増えていますが、相談者の方に寄り添った丁寧な相談が行えるように今後も心がけていきたいと思えます。

《手塚委員》

市民委員として参加していて感じたことは、この会議で意見したことが事業のどこにつながったのか見えない部分がありました。例えば、子育ての切れ目のない支援がどんな状態のことなのか、そのビジョンを決めようかという話が以前ありましたが、その答えが今年出てないままだと思うので、来期に持ち越していただきたいと思えます。

また、民間と連携して事業を行うと良いという話もありましたが、その意見がどう受けとめられて、どう行動されているのかがわかりませんでした。今回の事業評価も内容が変わったものの、どう運用されるかが大事ですので気になっています。

良かった点は、先ほど秋元部長が発言された目標設定の部分と、課題の設定の部

分は、行政の中でもまだ弱い部分だと思っているというお話を聞くことができ、行政側のリアクションを感じる事ができたことです。

《橋本委員》

流山市の子ども子育ての支援のあり方について、短期としては保護の必要な子供への支援が一つ目です。教育支援、生活支援、経済支援などいろいろあるかと思えます。それから子どもたちに携わる職員の教育研修、環境の充実が、質の向上に繋がっていくと思えます。これらの事業の方向性については、先ほど議論をした評価シートを基に見守っていけるかと思っております。

次に3年から5年の中期では流山市の地域性を踏まえて、1点目は、子ども子育てに関する現有施設設備の見通しについて、2点目は、ポストコロナを踏まえての130事業の評価と数年後の見通しです。この中期の課題の検討にあたっては、場合によっては別に仕組みを考えるということも必要ではないかと思っております。

《田中委員》

8年間委員として参加させていただいて、当初は保育の量の議論であったのが、この後は保育の質の議論に入るのかなという部分を感じました。

この会議では全体をみて議論しなくてはいけないので、どこまで深いところまでできるのかが難しいなどと思いながら、親の苦悩であったりとか、そういう気持ちのケアとかはどう汲み取るのかを思いながら、議論していくことが重要であると思っています。

《柏女会長》

この2年は、第二期計画を作るということで、保育や学童等のサービスの確保のための審議や事業評価について審議を進めてきたと思えます。

今後は保育や学童の量の拡大傾向から、全国的に潮目が変わってきています。最近の動向としては、障害関係では医療的ケア児の増加や、生活困窮家庭やひとり親家庭の増加や、子どもの貧困の問題が大きく顕在化していることがあります。何が起きているかを、しっかりと見定めた上で対策を打っていかなくてはなりません。

例えば、コロナウイルスの影響で生活様式が変わる中で、新しい生活様式がどう定着していくのか、そしてその中での新たな課題を確認していかなくちゃいけないと思えます。また、今後は特に世界的にSDGsの取り組みがなされる中で、それを、子ども子育てとして考えた場合に、どういう方向性を目指すべきなのかが課題に上がってきます。全国動向を見ながら、そしてローカルに行動していくという姿勢が

求められていますので、そういった意味では、これからの委員の方々の意見を結集できればと思っております。活発な意見が続くことを願っております。

それでは最後に、吉川副会長お願いいたします。

《吉川副会長》

8年間という長い期間、委員をやらせていただきましてありがとうございました。事業評価に関しては、行政が民間と手を組んで活動している市民団体があると思いますが、その活動について認識し合っているかが、不明瞭な点があったので、そこはお互いに評価し合いながら、目標に向かって進んでいけるようになったらいいと思いました。

私が所属しているおやこ劇場は、本来こどもの権利条約に則った発達とか、文化環境を良くするための団体ですが、なかなかそういうところまで話がいかなかったもので、今後そういうところにも目を向けていただけるようになるといいなと思っております。

《柏女会長》

皆様からたくさんのご意見ありがとうございました。次期会議でもご一緒できる方、あるいは新しく入る委員の方がいらっしゃるかと思いますが、それぞれ皆様方のご活躍をいただきたいと思います。2年間にわたりまして本当にありがとうございました。

以上で本日の子ども・子育て会議を終了いたします。

以上